

平成 2 2 年度 病害虫発生予察情報

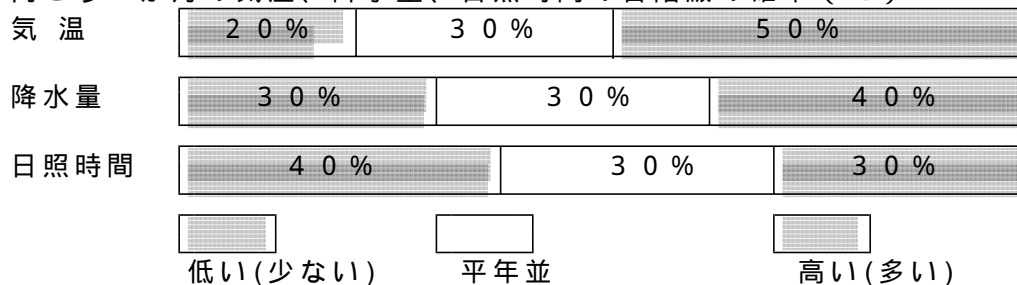
発生予報第 3 号 (5 月後半 ~ 6 月前半)

平成 22 年 5 月 17 日
島 根 県

予報の概要			
区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	やや少ない
	イネ	ヒメトビウンカ	平年並
		ニカメイチュウ	少ない
		イネミズゾウムシ	やや多い
果樹	ナシ	黒斑病	やや多い
		黒星病	やや多い
		シンクイムシ類	やや多い
		ハマキムシ類	平年並
		ハダニ類	平年並
		カキクダアザミウマ	平年並
野菜	カキ	カキクダアザミウマ	平年並
	タマネギ	ポトリ糸菌による葉枯れ	平年並
		べと病	やや多い ~ 多い
		腐敗病・軟腐病	やや少ない

中国地方1か月予報 (5 月 15 日 ~ 6 月 14 日 ・ 広島地方気象台 5 月 14 日 発表)

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >



A . 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類 (小 さび病、赤 さび病)

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

発生量はほぼ平年並みである。

向こう 1 か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

ムギの出穂は平年に比べてやや遅い。

発生量はほぼ平年並みである。

向こう 1 か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

発生量はほぼ平年に比べてやや少ない。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

予察灯への飛来は、5月第3半旬まで認められない。

4月中旬のすくい取り調査では、捕獲数は0.15頭/20回振(去年同期1.52頭)、

発生圃場率は10.1%(去年同期25.6%)で発生量は昨年比べて少ない。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ(第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 少ない

予報の根拠

前年の第2世代成虫発生量は平年比1%で、越冬量は少ないと考えられる。

予察灯への飛来は、5月第3半旬まで認められない。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

前年の新成虫の誘殺数は平年に比べてやや多く(平年比165%)、越冬成虫量は平年に比べてやや多いと考えられる。

予察灯への飛来は、5月第3半旬まで認められない。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

5月7日の巡回調査(安来地区)では、発生量は平年と比べてやや多い。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

4月26日、巡回調査(安来地区)で初発を確認した。

5月7日の巡回調査(安来地区)では、葉での発病は確認していないが、10圃場中4圃場で幼果での発生を確認している。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平年並

発生量 やや多い

予報の根拠

初飛来日は4月11日で平年並みである。

前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数はやや多く、越冬量はやや多いと考えられる。

フェロモントラップ(安来市)でのナシヒメシンクイの誘殺数はやや多い。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 やや遅い

発生量 平年並

予報の根拠

初飛来日は4月15日でやや遅い。

フェロモントラップ(出雲市)でのハマキムシ類の誘殺数は平年並みである。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。

5月上旬の巡回調査(安来市)では寄生花そう率は2.9%(平年2.9%)と平年並みである。

向こう1か月の気象は本種の発生に特に助長する要因とはならない。

2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生時期 やや遅い

発生量 平年並

予報の根拠

4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。

5月15日の巡回調査では巻葉被害が認められた。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ポトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

発生量はほぼ平年並みである。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い~多い

予報の根拠

4月5日付け注意報第1号参照。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

発生量は平年に比べてやや少ない。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

最新の農薬登録状況

独立行政法人 農薬検査所ホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農薬検査所のアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>

e-mail nougi@pref.shimane.lg.jp